

どうする？ 大阪の美しいまちづくり

景観面での評価があまりいいとはいえない大阪。

はたして大阪は美しくなるべきか、美しくならない方が大阪らしいのか。

美しくするとしたらどのような方策をとればいいのか。

そんな問題意識から活動を開始していた、都市再生委員会内の「美しい・たおやかな大阪まちづくり研究会」の報告書がまとまった。大阪の景観向上をめざす研究会の成果についてレポートする。

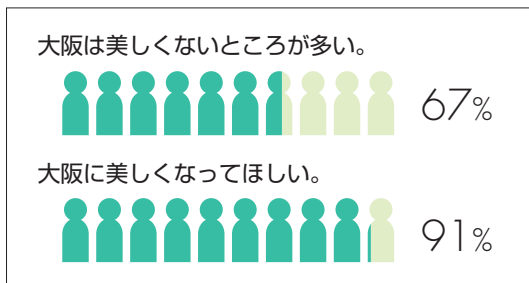


9割の人が「大阪に美しくなってほしい」

研究会ではまず、大阪都心部の景観の現状やあり方について一般にどのように思われているのかを把握するため、関経連会員企業のオフィスワーカーを中心にインターネットによるアンケート調査を行った(有効回答数1,593人)。

まず大阪の美しさについて尋ねたところ、67%の人が「美しい場所もあるが美しくない場所が多い」と回答し、その逆の「大阪は美しくない場所もあるが、美しい場所が多いと思う」

の13%を大きく上回った。一方、大阪の美しさを向上させることについては91%の人が賛成し、「今のままでいい」の5%を大きく上回った。一般的には「美しくないところが大阪らしい」などといわれることがあるが、アンケート



結果をみると、現在の大阪は美しいとはいえないが何とか美しくしたいとする回答者の気持ちが表れている。

群を抜く「中之島」「御堂筋」の美しさ、夜に限れば「ベイエリア」「梅田」も

次に大阪都心部の代表的な10のエリアをあげ、美しいエリアについて聞いたところ、昼と夜とで異なるエリアが上位を占める結果となった。

「昼間美しい」とされたのは中之島周辺および御堂筋周辺のエリアで、他のエリアを大きく離している。しかし夕方や夜景の美しさを聞くと、中之島のほかベイエリアや梅田、OBPなどが評価を得ている。ベイエリアは大阪湾に沈む夕日の美しさ、中之島は中央公会堂、OBPは大阪城のライトアップを理由にあげる人が多く、シンボリックなものがエリア全体のイメージを形成しているといえる。このように時間帯による違いと同様、桜など季節の違いなども折り重なり、さまざまなシンボリックな魅力が大阪の美しさの特徴といえる。

「美しくない」エリアも「大阪らしい」エリアも同じ界隈性のあるまちなみから生まれる

次に「大阪らしい」エリアを尋ねたところ、難波、心斎橋などの界隈性のあるエリア、いわゆる「ごちゃごちゃ」したエリアのほか、御堂筋(銀杏並木)、天王寺(通天閣・新世界)など大阪のシンボルと認識されているエリアが上位を占めた。

一方、「美しくない」エリアとしては天王寺、

難波、アメリカ村、梅田となっており、ターミナル周辺の繁華街に景観の乱れが多いことが指摘されている。特に難波、天王寺は「大阪らしい」および「美しくない」の両方で上位となっている。これは難波、天王寺の特徴である「ごちゃごちゃ」したまちなみが大阪らしいと映る場合と、混乱していると映る場合の両面があることを示している。しかし、次にあげる「美しくなしてほしいエリア」にもこの両エリアがあげられており、大阪の特にミナミの特徴である「界隈性」をどのように生かすかは重要な課題である。

「大阪の顔」だから美しくしたい梅田、難波、天王寺

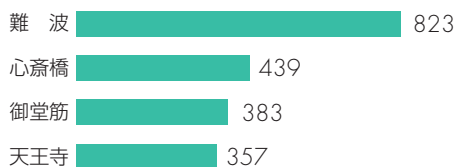
大阪の美しくしていきたいエリアについて尋ねたところ、梅田、難波、天王寺の順となった。いずれもターミナルであることから「大阪の顔」「大阪の玄関口」とであると認識されていることが大きな理由となっている。特に難波は、大阪らしさや活気を生かすべきとの意見が多い。難波、天王寺は、前述のようにあまり美しくないエリアとされるが、やはり美しくなしてほしいと考えられており、そのままいいという意見は少数である。また、美しくなることで大阪らしさが失われることを危ぐする意見もあり、「大阪らしい」美しさの追求が重要である。

やはり「水都大阪」らしい場所が人々の共感を得ている

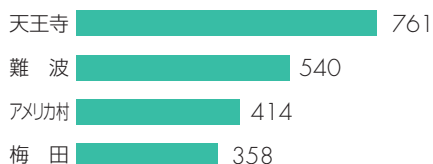
アンケートの最後に、大阪で最も美しい場所、あるいは人に紹介したい場所、思い入れのある場所などのベストスポットを自由記述で回答してもらったところ、1位大阪城、2位中之島、3位ベイエリア、4位御堂筋、5位難波となった。

いずれも大阪の歴史と水や緑などの自然、そして都会性がうまく融合しているスポットであり、「水都大阪」らしい場所である。こうしたせっかくの場所が心無いゴミやタバコ、禁止看板、駐車・駐輪などで美しさを損なっているとすれば大阪にとっても大変な損失である。研究会ではアンケート調査などの結果をふまえ、大阪の景観向上に向けた10の提言をまとめている(P.6～7参照)。

大阪らしいエリア (2つまで回答可)



美しくないエリア (2つまで回答可)



国レベルで景観向上に向けた動きが加速するなか、2003年10月に活動を開始した「美しい・たおやかな大阪まちづくり研究会」。美しいまちづくりに向けて、大阪は今後、どのような取り組みを進めるべきか。関経連都市再生委員会の竹中委員長に聞いた。

まちの景観に気を配り、手をかけていく姿勢が美しいまちをつくる

——研究会の名称にある「たおやか」という言葉には、どのような思いが込められているのですか。
 竹中：「たおやか」とは、姿・形・動作がしなやかで優しい様子を表現した言葉ですが、大阪のあるべき都市景観について考える際にこの言葉をキーワードに使ったのは、なにわ大阪の歴史や文化、伝統を重んじて、かつてのような人情味あふれるまちづくりをしたいという思いを表現したかったからです。谷崎潤一郎の『細雪』は昭和初期の大阪の裕福な商家の四姉妹を描いた小説ですが、彼女たちの話し言葉は実に気品があり、暮らし方もゆったりとしていて、戦前の船場界隈の商家にはそうしたたおやかな文化が息づいていたことを感じさせてくれます。戦後失われてしまったそうした良き文化を今一度見直す必要があると思うんですね。

と同時に、これまでは都市開発などのハード面の整備が話題の中心となっていたまちづくりに関し、これからはまちの維持管理といったソフト面をより重視する必要があると考えています。そこに住んだり勤めたりする人々がある程度気を配り、手をかけていく姿勢が美しいまちづくりにとって不可欠であり、そうした意味合いも「たおやか」という言葉に重ねました。

——これまで行政や住民主体で取り組んできた都市の景観問題に経済界が取り組む意義は。

竹中：パリやニューヨーク、上海のような世界都市は、その活気ある都市経済が話題になりますが、都市景観にも目をみはるものがあり、双方は表裏一体をなしています。そうした点からいえば、国際集客都市を標ぼうする大阪には、都市経済の側面と同時に都市景観の面でもなすべきことがあります。ドバイやシンガポールなど、世界の諸都市は集客をめぐる都市間競争を繰り広げています。また、プラハ

のまちなみの美しさには心を打たれるものがあります。大阪に人を呼び込み、都市経済の活性化につなげるためには、美しい景観形成はぜひ必要だと思います。折しも、国土交通省の方でも「美しい国づくり政策大綱」、続いて「景観緑3法」の成立と、国土を美しく整備し良好な生活環境を形成するための施策が打たれました。ビジット・ジャパン・キャンペーンにも関係しますが、大阪でも何かアクションを起こすことが必要と考え、都市再生委員会のもとに研究会を立ち上げて取り組むことにしました。

アンケート調査で浮き彫りになった大阪の美しいまちづくりの方向性

——研究会では大阪で働く人々を対象にアンケート調査を実施されたようですが、この結果についてご自身はどのような感想をもたれましたか。

竹中：一つは、大半の方が大阪のまちについて「美しくない場所が多い」と思う一方で、「なんとか美しくしたい」と思っておられることがアンケートを通じてわかったわけですから、やはりこれについて

**エリアの特性を生かした
まちづくり
地域一体で取り組みを**

竹中 統一 氏

Toichi Takenaka

関経連都市再生委員長
(竹中工務店社長)

は地域をあげて前向きな取り組みをしていかなければならないと、あらためて思いましたね。

また、大阪の場合はエリアごとの特性を生かし、伸ばすべき部分は伸ばし、悪いところは改めていくというやり方が実情にあっているということが今回の調査で浮き彫りになったように思います。

つまり、京都は歴史文化都市、神戸は港町といったふうにイメージが比較的統一されていますが、大阪のイメージはそのようにひとくくりにはできません。美しいかどうかという評価軸のほかに、大阪らしいかどうかという軸もあります。典型的なのが道頓堀や法善寺横丁のような界隈性のある街並みであり、大阪の特徴とされています。そのほかに歴史的都市としての大阪城や中央公会堂、水都としての中之島やベイエリア、ビジネス街としての御堂筋、新しいまちづくりが期待される梅田など、エリアごとに異なるイメージがもたれています。今回のアンケートではそうしたエリアごとの特徴と方向性が明りょうに示され、今後のまちづくりを考える際の重要な視点を与えてくれたのではないのでしょうか。

私自身、アンケートで評価が高かった中之島や御堂筋はやはり美しく感じますし、道頓堀や法善寺横丁などはいかにも大阪らしいまちですから、これを伸ばす方向でまちづくりを進めたらいいのではないのでしょうか。一方で、古き良き、たおやかな大阪の



イメージをもつ船場や道修町の一部が路上駐車や駐輪、看板があふれた雑然としたまちになっているのはとても残念なことなので、これについては改善する方向に進めばいいなと思っています。

——アンケートでは、「美しくしたいエリア」の第1位に梅田周辺があげられていました。

竹中：やはりまずは玄関口から、という意識の表れでしょうね。交通結節点であるターミナルは人の集まる拠点であり、やはり整備効果が高いといえます。

梅田周辺は地下街が発達し、高層ビルや商業施設が立ち並ぶ都市景観が特徴ですが、グランドレベルのストリート性にやや乏しく、歩く楽しみという点では物足りないものがあります。今後は都市的魅力とターミナルとしての利便性という特長を伸ばしながら、一方で今までにない特徴は付加していき、全体として梅田周辺の都市環境を整備する必要があります。そのためには梅田都心に残された最後の貴重な資産である北ヤードをモデル地区にし、地上を楽しく歩けるまちづくりを行うことが大事です。

まちづくりに「企業市民」が果たす役割は大きい

——今後、魅力的なまちづくりに向け、経済界としてどのような姿勢や取り組みが必要でしょうか。

竹中：国内外の都市再生の事例をみても、地元の熱意と危機感がよいまちづくりの原動力になっています。関西はもともと民のポテンシャルが高い地域でもあるので、官民がうまく協調すれば魅力的なまちづくりが成功するのではないのでしょうか。ニューヨークのタイムズスクエアも、そのようにして安全で安心なまちに変わったと聞いています。

特に都心部は企業の占める割合が大きいですから、「企業市民」が景観向上に果たす役割は決して小さくありません。昔の大阪商人が自分の店だけでなく、周辺の公共空間についても気を配る美意識をもっていたように、経済界としてもそうした美しいまちづくりに向けた動きを誘導し、支援するための調査研究、経済界同士のヨコの連携、特定プロジェクトでの協力体制づくりなどの面で取り組むことができればと思っています。

美しいまち・大阪に向けた10の提言

「美しいおやかな大阪まちづくり研究会」が報告書に盛り込んだ提言は次のとおり。

提言 ① 大阪では、エリアごとの特性をふまえた美しさ向上策を実行しよう

大阪は、「エンターテインメント」「食」「水都」などさまざまなイメージをもつ都市であり、そうした個性あるエリアの集積こそ大阪の魅力である。すでに美しいエリアはその特長を伸ばし、大阪らしいエリアはその個性を磨くことが大切である。さらには、そうした美しさ、大阪らしさを発揮することを阻害している要素があればそれを改善することで、各エリアの景観向上、ひいては「大阪全体の美しさ」の向上につながる。

提言 ② そのためにまちづくりや街の維持管理・運営をエリア単位のタウンマネジメントへと再編していこう

提言 ③ 地元組織をタウンマネジメント団体として認定する制度を設け、委託可能な維持管理や運営は認定団体に委託しよう

まちづくり、あるいはまちの維持管理に関しては公共セクターが行っているが、それは必ずしも十分ではなく、景観の混乱や景観阻害要因がまちにあふれる原因となっている。

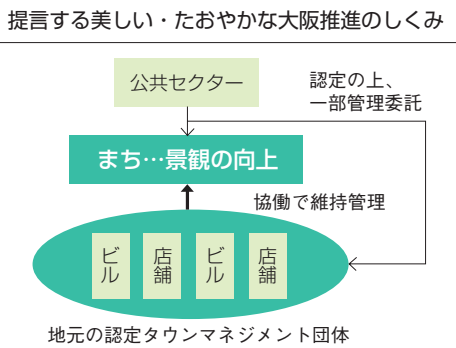
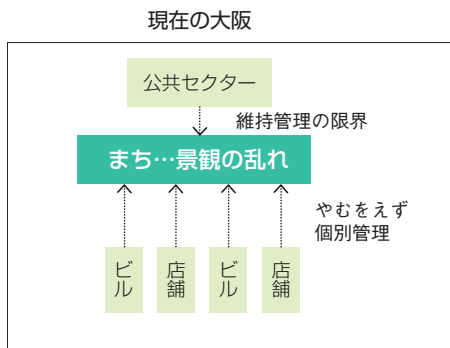
例えば道路にあふれる駐車や駐輪。公共セクターによる取り締まりが追いつかないため、ビルや店舗は自衛的に駐車禁止の立て札や張り紙で対抗しようとするが、それがかえって景観悪化を招いている例もある。

一定の基準を設けて、まちづくりに意欲のある地元組織をタウンマネジメント団体として行政が認定し、まちの維持管理を一部委託し、必要資金の捻出を共同で取り組むようにしてはどうか(P.7の図)。

提言 ④ タウンマネジメント団体の横の連携をはかるプラットフォームを設置し、景観向上活動の相乗効果を高めよう

エリアごとの美しさ向上には各エリア固有の課題に加えて共通の課題がある。情報交換や協同による課題解決などヨコの連携を促すプラットフォームづくりが望まれる。しかもそれは認定団体のほか、公共セクター、有識者、一般市民なども参画するオープンで活発なものであることが望ましい。





提言 ⑤

大阪の「顔」となる大型ターミナル周辺の美しさ向上をめざそう

梅田、難波、天王寺といった大型ターミナル周辺は「大阪の玄関口」としての期待が大きい。これには地元組織、公共セクター、事業者、各種団体、市民などが力をあわせ、重点的に取り組んでいくべきである。

提言 ⑥

道路・公園などの計画・整備は、完成後のタウンマネジメントを含めて検討・推進しよう

せっかく公園や道路をきれいに整備しても完成後に駐輪や立て看板が置かれるケースも多い。これらの整備の際には、完成後の管理委託、運営方針などのタウンマネジメントを見すえた整備計画を公共セクターと地元組織が一体となり推進すべきである。

提言 ⑦

事業者はその活動のなかで、大阪の美しさの阻害要因となっているものを見直し、美しさへ貢献するよう改善していこう

提言 ⑧

大阪の美しさ向上に資する業務改善を行った事業者を認定・表彰する制度を整備しよう

路上の駐車・駐輪、禁止看板、のぼりな

ど、事業者の営業行為やビル・不動産の管理業務のあり方が景観を損ねているケースもある。個々の事業者は企業活動と景観の両立の観点から自らの業務全般を見直し、必要な改善策を検討し実行していこう。

そしてそうした事業者のモチベーションを高めるため、景観向上に貢献する事業活動や業務改善の表彰制度を作ってはどうか。

提言 ⑨

公園・河川・歩道上の美しくない看板・施設類は見直してほしい

例えば中之島公園や周辺河川は「水都大阪」をPRする上で重要なエリアだが、公共セクターによる禁止看板、売店の看板・のぼりなどを無造作に公園内に立てている例がみられる。これらの改善を望みたい。

提言 ⑩

市民への景観向上PRと、子供を中心に景観教育に取り組んでほしい

大阪が美しくない理由には、駐車・駐輪や看板のはんらんとといったハード上の課題と並んで、通行人のマナーの悪さも指摘されている。小中学校の義務教育、市民講座などの生涯学習などにより広く市民の景観教育の強化をはかるべきである。

これらの提言をふまえ、関経連都市再生委員会では引き続き、大阪・関西の美しいまちづくりに取り組んでいく予定である。



上：必要にせまられ、店舗ごとビルごとに前面道路に対する管理努力が行われるが、景観面では悪化(心齋橋)
中：事業者の営業活動による看板類(梅田)
下：告知の必要があるにしても、もう少しデザインに配慮したい(OBP周辺)